

説 教 第一アドベント聖日 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2020年11月29日(日)

主 題：「主がお入用なのです」

－期 待－

テキスト：マタイ福音書21章1－9節

はじめに

- 今日、私たちは第一アドベント（待降節）を迎えました。時の流れの速さに驚きます。クリスマスは、もうそこまで来ています。皆さんはアドベント（待降節）と聞かれると、いったい何を思い出されるでしょうか？  
きっと、それぞれが思い出をお持ちでしょう。
  - しかしアドベントを象徴するのは、なんといってもアドベント・リースです。アドベント・リースとは、緑色のもみの木の葉で作られた輪に4本のろうそくが建てられ、真ん中にイエス・キリストを象徴するロウソクが立てられます。第一アドベントには、第1番目のロウソクに灯を灯します。順に2本目、3本目、4本目と灯を照らします。4本目のロウソクに灯がともると、クリスマスを迎えます。そしてクリスマスの日、真ん中のロウソクに灯をともします。
  - ところで、ロウソクには象徴的な意味が秘められています。第一アドベントのロウソクは「期待」、第2アドベントのロウソクは「備え」、第三アドベントのロウソクは「灯」、そして第四アドベントのロウソクは「約束」を象徴しています。
- 今日は第一アドベントですので、「期待」について考えます。先ず今日のテキストから分かるように、イエス時代のイスラエルは、メシア到来を待ち望んでいました。政治的には、ローマ帝国の支配下に置かれていました。メシアが来れば、政治的にイスラエを救ってくれるという期待がありました。群衆はイエスのうわさを耳にしていました。
  - イエスが、エルサレムに来られたと聞きました。群衆は大喜びで道路に上着を引き、大声でイエスを迎えました。彼らは、「**ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。**」(9節)、と叫びました。**ホサナ！(Save us now!)**。それは彼らの「期待」の声でした。
  - ダビデの子⇒救い主(メシア)**という意味です。**ホサナ⇒：「我らを救いたまえ」(Save us now)**という意味です。これは、**全人類の叫びでもあります。**
  - ところで、私たちは人生にどんな期待を持っていますか？ だれも祝福の人

生を過ごしたいという願い[期待]があります。期待を持つ人は、人生に活力が生まれます。なぜなら、期待は「モチベーショ」（やる気）を与えるからです。そして希望を与えるからです。 2点

### 大切なポイント

#### 1. 神はご計画をもつお方である

##### 1) 主の計画

神は無秩序の神でなく「秩序の神」です。ですから、計画をお持ちです。私たちの所有物や時間は、私たちのものです。しかし、神はそこにもご計画をもっておられます。私は自分の人生を振り返るならば、これまでの生涯の中で神が計画をもっておられたことがわかります。

- ・私は 14 歳の少年時代に、イエスをキリスト(救い主)と信じ受け入れ、クリスチャンとばりました。23 歳でドイツの大学へ留学し、30 歳で召命をいただき献身し、ドイツ在住邦人伝道を開始しました。そして Duesseldorf 日本語キリスト教会が誕生しました。
- ・当時はまだ、鉄のカーテン下にあった旧東欧諸国に入り伝道活動をしました。迫害下にあった教会とクリスチャンへ、日本からの愛の手を差し伸べる働きをしました。35 歳の時、妻と 3 人の子どもと帰国しました。神は私のような小さな者を用い、堺に堺インターナショナル・バイブル・チャーチを建てられました。その時、私はまだ 40 歳でした。ベルリンの壁崩壊後、主はビジネスマンの方々に、欧州情勢からみる「バイブル・セミナー」を開く計画を持っておられました。そこからビジネスマンへの聖書研究会、聖書講演会、そして月曜礼拝（現在のプレイズ・ワーシップ）へと発展していきました。主は、確かに計画をお持ちでした。北浜チャーチは、その流れの中から約 17 年前に誕生しました。
- ・すべて主のわざでした。私の場合は、財産という所有物はありませんでした（今もないが）。しかし、時間という所有物を主に用いていただきました。それは主の恵みでした。

##### 2) オーナーへの主の計画

- ・ところで、イエスがろばの子のオーナーに求められたことは、何でしたでしょうか。⇒信仰にあって犠牲を払うことです。つまり自分の所有物（ろばの子）を提供することでした。ここで大切なことは、イエスがお言葉を与えられたことです。

21:3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです。』と言いなさい。

そうすれば、すぐに渡してくれます。」

- ・イエスのお言葉には権威があり、力があり、保証があります。イエスのお言葉は約束でもありました。神のご計画は、後日知ることが多いものです。しかし神は時として、おことばを与え、その先の道を示されることもあります。それを受け止めるには、「信仰」が必要です。オーナーはすぐに渡してくれると、聖書は記録している。それ以上、何も書いてありません。
- ・信仰とは、ただ受け入れることではありませんか。信仰とは元来、そんな複雑なことではないはずです。私たちは人生の年輪を重ねると、いろんな経験を積み、知識やスキルも増してきます。豊かな経験を積み、豊かな人になります。逆に人との関係で苦い経験をすると、人を簡単に信頼できなくなります。しかし、神への信仰はそういう人間関係とは違います。
- ・聖書は、「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」（ローマ10:9）、と語っています。
- ・口でイエスを主と告白し、イエスが死んでよみがえられたと信じるなら救われます。皆さん。実に単純、明快です。これが聖書が語るイエスの福音(Good News)です。

### 3) オーナーは主に用いられた

- ・ある人は、このストーリーは出来すぎだ、と言います。ろばとろばの子がそこにいることは、偶然だろうと言います。このテキストにはいろいろな説がありますが、ここに大切なレッスンが秘められています。人には、偶然で不思議なことであっても、神には不思議でも偶然でもないことです。⇒オーナーは主に用いられたことです。文脈から分かることは、彼は従順な人でした。

21:3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです。』と言いなさい。

そうすれば、すぐに渡してくれます。」

- ・そうすれば、すぐに渡してくれます。⇒ 「従 順」
  - ① 従順とは、神がケアしてくださるから安心して従うという信仰です。  
(子⇒親へ) そしてもうひとつは；
  - ② 従順とは、(秩序の) 神が成されることを、(そのまま) 受け入れる信仰です。  
皆さん。人には偶然と思われる中でも、神は臨在しておられます。
- ・神の許しがなくては、髪の毛一本さえ地に落ちることはないと言聖書は教えています。ここで問題となるのは：
  - ① 理不尽な出来事（自然災害、不慮の事故、不幸な事件）をどう理解するかです。

② その秩序の神を受け入れることの難しさです。

{例 話 1} 「信仰をなくしたのか？あるいは最初からなかったのか？」

・スコットランド出身の伝道者イアン・リーチは、次のような話をしました。彼はある経営者の依頼で、会社従業員にメッセージすることになりました。集会後、一人の女性が個人面談を求めて、こう言いました。

・「先生。私は22歳で交通事故に会い、大切な恋人を失いました。それから何度も大手術を受け、今、ようやく普通の生活ができるようになりました。でも、私は信仰をなくしたのです。神はなぜ、このような苦しみを与えたか信じられません。」

・イアン・リーチ伝道師は短く祈り、こう答えた。

「こういう話を知っていますか。豪華客船クイーン・メアリー号や、クイーン・エリザベス号など建造する際、どのように船体検査をすると思いますか。舟を水のない栈橋において、ホースで水をかけ浸水しないかどうか確かめるわけではないのです。海の真ん中に引き出して、そこでテストするのです。このテストは、舟を沈めるためではなく、浮かぶかどうかを調べるためのものです。それと同じように、私たちの信仰が本物であるかどうかは、人生の荒波の中に置かれることによって明らかになります。」

・そこで、正直に答えてください。「あなたは信仰をなくしたのですか？あるいは、最初から信仰がなかったのですか？」彼女はこう答えた。

「先生！言われるとおりのです。私には信仰がなかったのです。」

・皆さん。私の言いたいことはお分かりでしょう。私たちは経験、体験を通して、信仰を学ぶのです。イエスの弟子たちもそうでした。イエスは、このオーナーの元へ2人の弟子を遣わされました。イエスはそこで、従順という大切なレッスンを訓練されました。

## 2. 神に用いられた人の特性

### 1) 神の祝福

神に信頼する人は、神に従順である人です。神は従順な人に祝福を備えておられます。祝福をいただくことは、名誉ある贈り物です。皆さん。オーナーは名前は上げられていませんが、これまで約2000年間語り伝えられてきました。何と言う榮譽ではありませんか。このテキストは2つのことを教えてくれています。

① **ゼカリヤ預言の成就。**

イエスがメシヤであれば、聖書のメシヤ預言はイエスにあつて成就しなければなりません。

「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。  
あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜わり、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。」  
ゼカリヤ書9:9

・母ろばと、子ろばのオーナーは、その預言成就のために用いられました。

## ② もうひとつは、ユダヤ人の歴史です。

これは異邦人ではなく、ユダヤ人でなければ理解しがたいことです。

- ・それはユダヤの歴史の悲劇のひとつです。BC 175年、エルサレムはアンティオコス・エピファネスによって攻略されました。彼はユダヤ教を一掃して、ギリシャの生活・風習・礼拝を取り入れようとしてしました。故意にエルサレムの神殿を汚し、豚の肉を祭壇にささげ、オリンピアのゼウス神に犠牲を捧げました。また神殿の内陣の小室を、公娼の場としました。
- ・その時、マカビー兄弟が立ち上がり、やがてエルサレムを奪還し、汚された神殿をきよめて、再び神聖なものとして神に捧げました。
- ・当時の記録は、外典の第二マカベア書（10：7）に記録されています。群衆は棕櫚の枝を手に喜びを表しました。イエスはこのことを意識され、神の家を清めるという意図をもって（宮清め）、エルサレムに入城されたのではないか、と思います。

## 2) 従順に従った人

・ところで、聖書から従順という信仰を実践した人への祝福を考えてみよう。

### ① ガリラヤ湖畔の漁師シモン・ペテロ

5:3 イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟にのり、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。 ルカ福音書

- ・天地を創造されたお方が、身を低くして一介の漁師に頼られました。この「頼む」とは、懇願する（ルター訳聖書：bitten、これは物乞いをする時に、心からの願いを訴える時に用いる言葉）ということです。
- ・シモン・ペテロにとって、イエスが頼まれた小舟は大切なものでした。もし彼が小舟を提供しなかったならば、彼のその後の展開はなかった。彼は従順でした。

### ② 2匹の魚と5つのパンを提供した人 マルコ福音書

6:37 イエスは答えて言われた、「あなたがたの手で食物をやりな

さい」。弟子たちは言った、「わたしたちが二百デナリものパンを買ってきて、みんなに食べさせるのですか」。

6:38 するとイエスは言われた。「パンは幾つあるか。見てきなさい」。彼らは確かめてきて、「五つあります。それに魚が二ひき」と言った。

6:39 そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。

6:40 人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくってすわった。

6:41 それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。

6:42 みんなの者は食べて満腹した。

- ・この奇跡を実体験した人々にとって、これはどんなに大きな経験であったのでしょうか。わずかな「パンと魚」が提供されました。祝福の源は、主イエスにありました。人々は、イエスのお言葉に従順でした。 満腹になるほどお腹を満たすことできたのは、その結果でした。

### ③ アリマタヤのヨセフはイエスのからだを引き取る

- ・イエスが十字架で処刑された後、アリマタヤのヨセフという議員で有力者が、イエスの遺体を引き取りたいと総督ピラトに願いました。罪人の遺体を引き取るには勇気がいりました。特にユダヤ人は、死人に触れる行為は、「汚れ」を意味し、忌み嫌いました。それは律法が戒めていたからです。 **レビ記**

21:11 死人のところに、はいつてはならない。また父のためにも母のためにも身を汚してはならない。

- ・マルコの福音書には、このように記録されている。

15:43 アリマタヤのヨセフが大胆にもピラトの所へ行き、イエスのからだの引取りかたを願った。彼は地位の高い議員であって、彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。

15:46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い求め、イエスをとりおろして、その亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納め、墓の入口に石をころがしておいた。

- ・当時、ヨセフの行為は非常に勇気がいったはずですが。しかし、彼の心には、自分の立場を考えての恐れや心配より、イエスのおからだを引き取りたいと

いう強い願望があったに違いありません。聖書は「**彼自身、神の国を待ち望んでいる人であった。**」と述べている。視点は主イエスに向いていました。

### 3) この3人には共通点があります。⇒ 「信仰の応答」

①**信仰とは犠牲を払うこと**。しかし、彼らの払った犠牲は強制でも、イヤイヤでもありませんでした。イエスへの信頼（信仰）があったからです。その時、払う犠牲は犠牲ではありません。

②**信仰の原動力**。つまり、何が彼らをそうさせたのか？⇒それは「イエスへの信頼」でした。イエスは、どんなお方でしょうか。ピリピ人への手紙には、こう語られている。

2:6 キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てること  
ができないとは考えないで、

2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられた  
のです。

2:8 キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にま  
で従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。

- ・キリストの十字架への道、それはどんなに大きな犠牲であったでしょうか。それは神の愛のしるしです。十字架を見上げれば、神の愛が見えてきます。そこには罪の赦しと解決があります。

「**人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。**」 ヨハネの福音書15:13

## ま と め

テーマ：「希望の光が来た」

—主がお入用なのです—

- ・イエスが語られた、「みことば」に祝福の秘訣があります。「主がお入用なのです」とは、主が言われたとおりになりました。

そこで学ぶことは、

#### 1. イエスのことばに権威がある

イエスのことばに、信仰の本質が秘められています。秩序の神は全てをケア—くださるという信仰が必要です。

#### 2. イエスのことばへの従順 ⇒ 祝福を受ける秘訣

イエスのおことばに従順であったオーナーは、名誉ある働きに加わりました。

- ・私たちは、いかがでしょうか・・・？ 真の期待は、どこに置くべきでしょ

う。⇒ 人の姿をとり、お生まれくださったイエス・キリストです。イエスは、天父神に従順でした。

- 今日、第一アドベントの朝、私たちはイエス・キリストの誕生を記念しましょう。そして、イエスへの正しい信仰(信頼)を持たせていただくではありませんか。

\*God bless you!